

レビューシート（令和4年度レビュー対象事業：フォローアップ型）

様式3

レビュー項目 (事業名)	依存症に関する正しい知識の効果的な普及啓発の検討 (依存症対策総合支援事業)			部(局)	福祉部	
				所管課	障害福祉課	
				担当班	精神障害福祉班	
				連絡先	078-362-3263	
開始年度	平成30年度	終了年度	—	関連計画等	県アルコール健康障害対策推進計画 県ギャンブル等依存症対策推進計画	
事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 国補助事業 <input type="checkbox"/> 県単独事業					
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直執行 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他()				実施主体等 県	
事業目的	依存症患者及びその家族等に対する包括的な支援を提供し、地域におけるニーズに総合的に対応するため、精神保健福祉センター内に設置(H30.1月開設)した「ひょうご・こうべ依存症対策センター」(以下「センター」)等において、依存症に対する相談に応じるとともに、依存症患者及びその家族等を支援する事業を実施する。					
事業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 依存症専門相談：センターに相談員等を配置、患者及び家族等を支援 2. 地域支援者等への研修：センターにおいて行政職員や一般県民等を対象とした研修の開催 3. 家族教室等の開催：センターにおいて依存症関連問題を学ぶ学習会の開催 4. 医療従事者研修の実施：拠点医療機関への委託により、医療従事者等への研修の開催 5. 自助グループ等との連携の強化、活動支援 6. HP・SNSでの発信、啓発資材作成等、広く県民に向けた効果的、効率的な啓発の実施 					
業務フロー	依存症専門相談・地域支援者等への研修・家族教室等の開催【直執行：精保C、健康福祉事務所】 医療従事者研修【委託：県→拠点医療機関(神大附属病院、垂水病院等)】 自助グループ等との連携強化、活動支援【直営、補助：県→自助グループ等民間団体】 広く県民に向けた効果的、効率的な啓発の実施【直営、委託：県→事業者】					
R4レビュー時の外部委員会意見	<ul style="list-style-type: none"> ・関係団体と連携して啓発活動等を何回したかというアウトプット指標にしてはどうか。 ・アウトカム指標は相談件数、アウトプット指標は相談イベント等の回数や実施時間等とすべき。 ・アルコール等に初めて触れるのは大学時代と考えられるため、若いうちから正しい知識を学ぶという意味で、大学生等、若者向けに周知することも検討してほしい。 					
改善結果 <small>(改善状況取組過程)</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ひょうご・こうべ依存症対策センター・健康福祉事務所における相談件数」をアウトカム指標に変更する。 ・アウトプット指標を、「関係団体と連携した啓発活動(研修会、啓発資材の配布、情報発信等)の回数」とする。 ・広く県民に向けた啓発については、10~20代に依存対象を始めるきっかけが多いことから、若年層に対し重点的な取組みを行うこととした。具体的には、5年度よりSNSを活用した啓発を行うとともに大学と連携した啓発資料の配布や研修の周知を行った。6年度は、5年度の取組みを継続するほか新たに高校生向けの予防教育を目的とした啓発資料を作成し、教育委員会と連携して活用に向けて取組んでいる。 ・自助グループ等団体との連携を強化し、R5年度より団体が行う研修やセミナー、相談会やミーティング、啓発活動に要する経費の補助事業を実施している(補助実績(上限500千円)：R5年度 11団体、R6年度 10団体)。 					
事業に要するコスト	区 分		4年度決算額	5年度決算額	6年度当初予算額	7年度当初予算額
	事業費①		5,860千円	14,794千円	17,604千円	17,661千円
	経費内訳	報酬・賃金	2,935千円	2,687千円	3,050千円	3,685千円
		委託料	1,281千円	2,354千円	4,817千円	5,147千円
		補助金・交付金	0千円	3,802千円	6,500千円	6,500千円
		貸付金	0千円	0千円	0千円	0千円
		その他	1,644千円	5,951千円	3,237千円	2,329千円
	(財源内訳)	(国庫)	(2,930千円)	(7,396千円)	(8,802千円)	(8,830千円)
		(特定)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	(0千円)
		(起債)	(0千円)	(0千円)	(0千円)	(0千円)
		(一般財源)	(2,930千円)	(7,398千円)	(8,802千円)	(8,831千円)
	予算額② ※精算補正前の予算を記載		5,860千円	14,794千円	17,604千円	17,661千円
	執行率((①/②)×100)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	人件費③(a+b+c)		従事人員 0.3人	従事人員 0.3人	従事人員 0.3人	従事人員 0.3人
			2,477千円	2,475千円	2,616千円	2,699千円
職員給与費	a	2,141千円	2,147千円	2,280千円	2,371千円	
賞与引当金繰入額	b	175千円	178千円	175千円	178千円	
退職手当引当金繰入額	c	161千円	150千円	161千円	150千円	
総コスト(①+③)		8,337千円	17,269千円	20,220千円	20,360千円	

レビューシート（令和4年度レビュー対象事業：フォローアップ型）

様式3

	指標名	区分	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度目標	最終目標【年度】
評価	成果指標(アウトカム指標①)	目標	1,375	1,403	1,431	1,460	1,489
		実績(見込)	1,396	1,375	1,410	(1,460)	【R8年度】
		(単位当たりコスト)	(6千円)	(13千円)	(14千円)	(14千円)	
		達成率(見込)	101.5%	98.0%	(98.5%)	(100.0%)	
	成果指標(アウトカム指標②)	目標	1,747	1,782	1,818	1,854	1,891
		実績(見込)	1,433	1,903	1,794	(1,854)	【R8年度】
		(単位当たりコスト)	(6千円)	(9千円)	(11千円)	(11千円)	
		達成率(見込)	82.0%	106.8%	(98.7%)	(100.0%)	
	成果指標(アウトカム指標③)	目標					
		実績(見込)					
		(単位当たりコスト)	—	—	—	—	
		達成率(見込)	—	—	—	—	
指標	活動指標(アウトプット指標①)	目標	—	6	8	10	12
		実績(見込)	—	13	16	(16)	【R8年度】
		(単位当たりコスト)	—	(1,328千円)	(1,264千円)	(1,273千円)	
		達成率(見込)	—	216.7%	(200.0%)	(160.0%)	
	活動指標(アウトプット指標②)	目標					
		実績(見込)					
		(単位当たりコスト)	—	—	—	—	
		達成率(見込)	—	—	—	—	
	活動指標(アウトプット指標③)	目標					
		実績(見込)					
		(単位当たりコスト)	—	—	—	—	
		達成率(見込)	—	—	—	—	
標	終期設定	有 ()		無 ()			
改善基準							

自	評価の視点	評価	目標に対する達成状況(総合的評価)
己	○有効性(評価指標に対する実績) ・県民ニーズを的確に踏まえた事業か ・民間での事業実施は見込めない事業か ・指標・目標設定は適切か ・活動実績は十分か ・想定された成果を達成しているか など	依存症に悩む者やその家族は相当数存在するが、依存症に起因する課題は多岐に渡るため、行政として関係部署や関係機関と連携して対策を総合的に進めていく必要がある。依存症の相談件数は伸びており、効果が現れている。	B：ほぼ満足 の い く 実 施 状 況 B ： ほ ぼ 満 足 の い く 実 施 状 況 B ： ほ ぼ 満 足 の い く 実 施 状 況 B ： ほ ぼ 満 足 の い く 実 施 状 況
	○効率性(最小のコストで最大の効果) ・業務改革に取り組んでいるか ・コスト削減の工夫を行っているか ・ICTや民間活力は活用しているか ・受益者負担は適正か ・財源確保の工夫は行っているか など	自助グループ等民間団体の活動補助事業により団体と連携した啓発を実施している。また、SNS等を活用した啓発により、若年層や依存症の問題を認識していない層にも広く効率的に正しい知識を普及できている。	
評	課題・今後の方向性 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 他事業と統合 <input checked="" type="checkbox"/> その他		
	説明 関係機関に繋がる者が増加し取組みによる効果は現れているが、アルコール依存症やギャンブル等依存症患者の県内潜在者数は相当数存在すると想定され、相談件数、外来受診者の実数とのギャップは大きい。「依存症は自己責任」と誤った認識を持つ人の割合が他疾患に比較して高いことや、専門相談や専門治療により回復可能なことが知られていないことが要因の一つとして考えられる。この課題を解消していくため、引き続き取組みを継続していく必要がある。		
外部委員会意見	○R4レビュー委員会の意見を受け、アウトカム・アウトプット指標の見直しを迅速に行い、相談件数や啓発活動回数など、実態に即した評価指標を設定した点は高く評価できる。 ○また、若年層への重点的な啓発として、SNS活用や大学・高校との連携による資料配布・研修周知を実施したことは、依存症の早期予防に向けた有効なアプローチである。さらに、自助グループ等との連携強化や活動補助事業の実施は、独自の改善であり、地域資源を活かした支援体制の充実に寄与している。 ○今後は、依存症に対する誤解や偏見の解消に向けた啓発の質的向上と、潜在的な支援ニーズの掘り起こしを意識した施策展開が求められる。関係機関との連携をさらに強化し、相談・治療へのアクセス向上を図ることで、より包括的な支援体制の構築が期待される。 ○自己評価はBであるが、積極的に工夫した事業改善が実施できており、非常に優れた取り組み内容であると考えられる。		